



第16回社会貢献型インターンシップ「クラダシチャレンジ」
in 北海道三笠市

Agenda

#01

クラダシチャレンジとは

#02

10日間のスケジュール

#03

活動報告

#04

参加者の声

#05

事後報告会

#06

総括

#01. クラダシチャレンジとは

#1. 社会貢献型インターンシップ「クラダシチャレンジ」とは

社会貢献型インターンシップ「クラダシチャレンジ」とは

地方創生やフードロス問題に興味がある学生が、人手不足に悩む地方農家での農業支援を通し、地域課題やフードロスなどの社会課題について考える、社会貢献型インターンシップです。参加学生の旅費・交通費や現地での滞在費、食費等は、地域経済の活性化と社会発展に寄与するために設立した「クラダシ基金」から支援しています。

クラダシチャレンジ実施の目的

活動中：未収穫品から新たな収益を生み出し、経済面で地方・農家を支えます。さらに、学生が現地を訪れることで町に活気をもたらし、地域の魅力をSNS等で発信することでさらなる発展のパワーに繋がります。

活動後：学生が自治体や農家の方1人1人の温かみに触れ、地方・農業の魅力を体感することで、将来のキャリア選択を通して地域に貢献しようという意識が芽生えます。

#1. 社会貢献型インターンシップ「クラダシチャレンジ」とは クラダシ基金の概要

地域経済の活性化と社会発展に寄与するために
設立された支援金制度「クラダシ基金」



地方創生事業・フードバンク支援事業・教育事業・
食のサステナビリティ研究会の社会貢献活動に充てられます。

クラダシ基金とは

クラダシ自らが社会貢献活動を行うために
創設した基金で、ソーシャルグットマーケット
「Kuradashi」上における寄付先の1つです。

地域創生事業やフードバンク支援事業、教
育事業、食のサステナビリティ研究会の社
会貢献活動に活用しています。

▼参考URL

クラダシ基金について

: <https://www.kuradashi.jp/fund>

#1. クラダシチャレンジとは

「クラダシチャレンジ」による農家・自治体への効果

①未収穫作物の収穫による新たな収益の獲得

地方では、農業人口の高齢化・労働者人口の不足によって、未収穫作物の発生が増加しています。三笠市で生産されているメロンの収穫は、一玉ずつ手作業で行われるため、時間と人手が必要です。収穫作業の必要な時期に学生を派遣することで、**未収穫による一次製品の食品ロスが解決される**と同時に、農家さんの新たな収益を獲得することができます。

②地方の関係人口の増加に貢献、若者を呼び地域振興に

地元の方から見たら当たり前風景でも、都心にいる学生から見ればとても価値のあるものに見え、**地元の商品や土地に誇り**を持つことができます。そして、SNS等を利用して地方の魅力を発信することで、**地方の関係人口の増加を図ることができます**。

③地元の特産品の購買促進、観光客の増加

三笠市は、メロンなどの特産品があるだけでなく、アンモナイトの世界的な発祥地でもあります。そのような素晴らしい魅力を、活動を通してPRすることで、**購買促進・観光客の増加**を図ることができます。

#クラダシチャレンジ in 北海道三笠市



Kuradashi

第14回 社会貢献型インターンシップ「クラダシチャレンジ」 in 北海道三笠市

- 活動内容:
 - ①メロンの収穫・選果・梱包・販売
 - ②市役所や農家の方との交流
 - ③SNS等を利用した地方の魅力発信
 - ④ソーシャルグットマーケット「Kuradashi」でのメロンの販売
- 開催期間:2022年8月1日～8月10日
- 参加人数:4人
- 実施企業:株式会社クラダシ（クラダシ基金にて運営）

#1. クラダシチャレンジとは

北海道三笠市クラダシチャレンジの概要

【三笠市とは】



三笠市は、北海道空知地方の南部、北海道のほぼ中央に位置しています。

豊かな森と湖に恵まれ、道中主要都市に近い良好な環境を持つ三笠市は、北海道の石炭と鉄道の発祥の地として栄えた歴史あるまちでもあります。

また、「エゾミカサリュウ」「アンモナイト」をはじめとした多くの化石を産する、地質学的にも重要な地域と言われています。



2022年6月に株式会社クラダシは、北海道三笠市とイオンアグリ創造株式会社とともに地域活性・食品ロス削減に向けた連携協定を締結いたしました。

一次産活性化に不可欠である、食品ロス削減に向けた取り組みを強化するとともに、地元の特産品や町の魅力の発信を通じて関係人口を拡大することを目指します。

▼連携協定について詳しくはこちら

<https://corp.kuradashi.jp/news/22-06-03/>

#クラダシチャレンジ in 北海道三笠市

Kuradashi

#02. 10日間のスケジュール

10日間のスケジュール① (Day1-3)

<Day 1>

10:55 成田発
12:45 新千歳着 昼食&デザート
14:30 JR千歳線小樽行き
14:51 北広島到着
15:04 北広島発
15:20 白石着
15:44 白石発
16:18 岩見沢着
16:25 タクシーで民宿アンモナイトまで移動
17:00 お風呂
18:30 夕食
19:00~ 自由時間

<Day 2>

7:45 民宿アンモナイト発
8:00 アグリ農場事務所着
~9:00 オリエンテーション
~10:20 草むしり
~11:30 定植
~12:00 草むしり
~13:00 休憩
~16:00 枝分け
~16:30 振り返り
~17:30 湯の元温泉到着
~18:30 民宿アンモナイト着&夕食
19:00~ 自由時間

<Day 3>

7:45 民宿アンモナイト発
8:00 イオンアグリ農場着
8:15 収穫作業開始
12:00 収穫作業終了
13:00 収穫作業再開
14:00 雑草取り
15:00 マルチ貼り
16:00 作業終了
16:15 振り返り&質問
16:45 民宿アンモナイト着
18:00 夕食
20:00 振り返り

10日間のスケジュール② (Day4-6)

<Day 4>

- 8:00 民宿アンモナイト発
- 8:45 達布山展望台
- 9:00 イオン・道の駅散策
- 10:00 山崎ワイナリー、タキザワワイナリー
- 11:20 まんぷく食堂
- 13:00 ジオツアー
- 16:15 解散
- 16:30 クロフォード公園
- 17:00 民宿アンモナイト着
- 18:30 夕食
- 19:45 振り返り

<Day 5>

- 7:20 民宿アンモナイト発
- 8:00 収穫作業開始
- 10:30 ドブ漬け作業
- 12:00 市役所販売
- 13:00 昼食
- 14:00 意見交換会
- 16:00 三笠トロッコ
- 18:00 市役所の方とお食事
- 21:30 民宿アンモナイト着

<Day 6>

- 7:30 民宿アンモナイト発
- 8:00 芽かき
- 9:30 イオンスーパーへ出荷のお手伝い
- 11:00 芽かき
- 12:00 昼食
- 13:00 芽かき
- 15:00 マルチの片づけ&草むしり
- 16:00 大塚さんとお話
- 17:30 民宿アンモナイト着
- 18:00 夜ごはん
- 21:30 話し合い

10日間のスケジュール③ (Day7-8)

<Day 7>

- 7:30 民宿アンモナイト発
- 8:00 マルチ張り
- 10:30 雑草取り
- 11:30 作業終了
- 12:00 昼食
- 13:30 のみやまファーム着
- 13:45 オクラの包装
- 14:30 ファーム見学
- 16:00 メロンの片づけ
- 16:45 作業終了
- 17:00 太古の湯
- 19:30 民宿アンモナイト着

<Day 8>

- 7:30 民宿アンモナイト発
- 8:00 収穫作業
- 11:00 ハウス内片付け
- 12:00 昼食
- 13:00 選果の方法
- 13:30 クラチャレ定期便梱包作業
- 15:30 作業終了
- 16:00 管理栄養士さんとお話
- 18:30 麺屋創で夕食
- 21:30 民宿アンモナイト着



10日間のスケジュール④ (Day9-10)

<Day 9>

- 7:30 民宿アンモナイト発
- 8:00 市役所販売準備
- 11:30 市役所販売
- 13:30 昼食
- 15:00 全体振り返り
- 17:30 振り返り終了
- 18:30 夕食

<Day 10>

- 7:30 民宿アンモナイト発
- 9:00 岩見沢駅着
- 9:30 白石駅着
- 10:00 北広島着
- 10:25 新千歳空港着
- 12:00 新千歳空港発
- 14:15 成田空港着



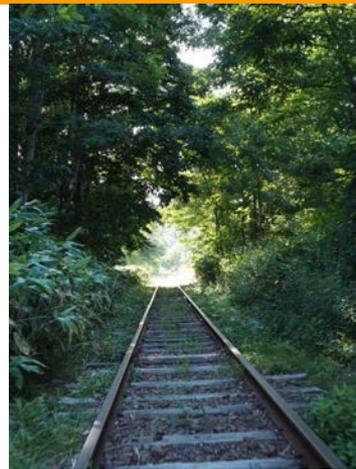
#03. 活動報告

▶観光

ジオツアーでは雄大な自然を体感するだけでなく、アンモナイトや炭鉱などの歴史から今の三笠市がどう形づくられてきたのかを深く学ぶことができました。これらは私たちだけで観光しているだけでは知り得ないような内容ばかりで、とても興味深かったです。

またその他にも、自分たちでトロッコを運転したりワイナリー見学をしたり、時間を最大限活用して沢山の場所を訪れることが出来ました。行く先々で「三笠周遊スマホ宝探し」に挑戦するのがとても楽しかったです。

#クラダシチャレンジ in 北海道三笠市



▶意見交換・市役所関連

意見交換を通して、市を運営していくにあたってさまざまなことが考えられていることがわかりました。例えば市の規模集約化のお話では、近隣地域の人を近くに住ませたり、周辺部と中心部の生活文化の違いを考慮したり、集約化を数十年単位で考えており、ただ単に市民を市の中心部に集めているだけではないことを知りました。HPを読むだけではわからないような、職員の方々の考えを知ることができました。

また、この日は別日に、三笠市で働く管理栄養士さんのお話も伺うことができました。高齢者・子ども・乳幼児のいる家庭などさまざまなターゲットに向けて、料理教室の開催、食事管理表の作成とアドバイスなどの施策がおこなわれていることがわかりました。市民と直接関わることがやりがいたとおっしゃっているのが印象的でした。

さらに、市役所ではメロンの販売を回行いました。2回目は、移動販売を試みたり、POPを書くなど、自分たちで販売方法を考えて販売させていただきました。完売することはできなかったのですが、前回より多く売り上げることができました。



▶農業①(イオンアグリ創造)

大枠で農業を見ていましたが、まだまだ考えることが山積みで奥が深い業界だと感じることができました。

現場に出てみるとメロンの販路を増やすのか、それとも害虫対策をするのか、地元で売るのか、人口の多い場所に売るのか、今日の気候で収穫すべきなのか否か、など毎日考える必要があり、常に農家さんは頭を働かせながら作業されていました。

現代は一人ひとりの価値観が尊重される時代で、イオンアグリ創造株式会社に入社しても価値観が合わず退職した人も多くいるといいます。農業は一つひとつの作業は確かに厳しいけど、全体を通じてお客様に役立っている、地元の雇用を生み出していると捉えることが大切だと知ることができました。



▶農業②(のみやまファーム)

三笠市に移住をして農業をされている「のみやまファーム」さんにお話を伺う機会をいただきました。

のみやまさんの畑では驚きの連続で、特に一番の驚きは「無駄が全く出ない」ということでした。

例えば、規格外の野菜はパートさんが持ち帰るか、それでも余ったものは飼育しているブタたちのエサになります。そしてそのブタたちは大きくなったらお肉として人間の口に入るそうです。

また、市場に出せないメロンは畑に還し肥料にすることで、来年の作物の栄養となります。のみやまさんはそこをメロンのお墓と呼んでいて、畑に戻されたメロンの種から小さな芽が出ていたのがとても印象的でした。

循環していく農業を実際に自分たちの目で見て学ぶことができたとても貴重な経験でした。



#04. 参加者の声

農業は知恵

今回全体を通じて「一次産業」の概念、つまり昔から築かれていた産業で、ある程度決まりきっている仕事を淡々で行うだけという大枠で農業を見ていましたが、農業という存在は一次産業の中でも逸脱した存在であることを理解しました。昔から行われてきた農業はやり方が定まっていると考えていましたが、実際は180度逆で、毎日手法が異なっており、農業というのは知恵で成り立っている奥が深い分野でした。

行動を起こしながら思考する難しさは長期的に見ても役立つので、今回の体験を踏まえて身に付けていきたいと思います。



【法政大学2年 佐藤絢斗】

やってみないと分からない

10日間という短い期間でしたが実際に農作業を体験し、予想以上の力仕事である反面、地道で細かい部分もあり農業の大変さは「やってみないと分からない」に尽きると思いました。

またこのような大変さのもとに私たちの前に食べ物が存在しているのだと知ることが出来たからこそ、改めて食品廃棄の現状に対してやるせなさを感じました。

普段、都心の消費者でいる時とは真逆の立場から食・農・地域について見つめることが出来た10日間は、とても刺激的で忘れられない経験になりました。



【明治大学 3年 荒木里彩】

相手の立場になって考えるということ

今回のクラチャレで、物事を多角的に見ることの大切さを学びました。

例えば、農業法人や個人の農家とでは食品ロスについて、それぞれの捉え方や考え方があり、とられる対策も異なっています。

以前は食品ロス問題を解決するにはこうあるべきという理想像が、固定概念としてありました。しかし、実際の現場を見て、食品の流通や消費者の意識など、現実的な問題が複雑に絡み合っていることを学び、自分本位の解決策、つまり相手の立場で考えられていなかったということを痛感しました。

食品ロス問題に限らず、社会問題は一人では解決できないと思います。だからこそ、自分の理想を押し付けるのではなく、相手の立場に立って想像力を働かせることが大切であるということ、今回学ぶことができました。



【東京家政大学3年清野百恵】

農業を支える人びと

今回の活動を通して、三笠市の農業には人の不足によって引き起こされる問題が多いことを実感しました。その中でも、農業従事者の高齢化や生産する側の労働者不足、三笠市に定着する若者の不足、生産した農産物を地元で食べる地域住民の不足など、作る人も食べる人も不足していることから、農業の規模が縮小化してしまうことが特に印象深かったです。生産者としても消費者としても、より多くの方が三笠市に定着することが、その問題を解決するには必要なことだと思いました。



【法政大学 2年 富田千聖】

#05. 事後報告会

第16回社会貢献型インターンシップ「クラダシチャレンジ」 in 北海道三笠市の参加者による事後報告会を行いました。

■日時: 2022年9月2日 13:00-15:00

■場所: クラダシオフィス・オンライン配信

■参加者: 「クラダシチャレンジ in 北海道三笠市」の参加学生
イオンアグリ創造の方
クラダシ社員

■目的: 参加した学生が、現地の方との交流・収穫支援の活動を通して見出した課題への解決策を提案する



課題と政策立案



課題1 三笠市の課題

わたしたちが考えた
三笠市の課題



若者の都市転出
(特に三笠高校出身者)

三笠高校生レストラン ESSOR(エソール)



<https://www.city.mikasa.hokkaido.jp/highschool/detail/00009036.html>

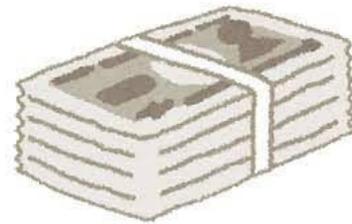


現在三笠市にある
起業助成制度



起業後の支援制度

例：販路開拓、新商品開発、広告、
宣伝



起業への資金提供

起業助成金 最大250万円
空き家利用でさらに100万円

現在三笠市にある 起業助成制度

- ・起業前の支援制度が少ない
- ・三笠高校卒業生向けの起業制度が整っていない

起業後の支援制度

例：販路開拓、新商品開発、広告、宣伝

起業への資金提供

起業助成金 最大250万円
空き家利用でさらに100万円

わたしたちの
提案

三笠高校卒業生が三笠市で
「働ける場所・制度」を構築する



空き家の
コワーキングスペース化



飲食店の起業を目指す若者への
ビジネススクール



マルシェイベントの実施

事例 おだわら・はこね第3新創業市

おだわら・はこねではじめる。
第3新創業市

創業市って
なに？

ABOUT

トピックス

TOPICS

創業者
インタビュー

INTERVIEW

創業支援
メニュー

MENU



わたしたちの
三笠市の理想像

雇用をつくる

若者の三笠市定着

食のまち三笠の
実現

富良野へ行く観光客を足止めし三笠市でおなかを満たす

若者がチャレンジ
できる場所を
三笠市内で作る

高校生レストラン
若者の起業支援

課題2 農業の食品ロス

生産現場で感じたこと

食べられるものがたくさん捨てられている



- ・一生懸命つくったものだから社員さんの前では極力捨てないようにしている
- ・規格外の物を加工できる工場が近くに無い
- ・輸送費がかかる



- ・値段下げれば買ってくれるひとはいるけど儲けが出ない
- ・昔に比べれば廃棄量はだいぶ減った
- ・規格外品にコストをかけたくない
- ・取りに来てくれれば渡す

わたしたちの提案

地域完結型フードシェアリングサービス

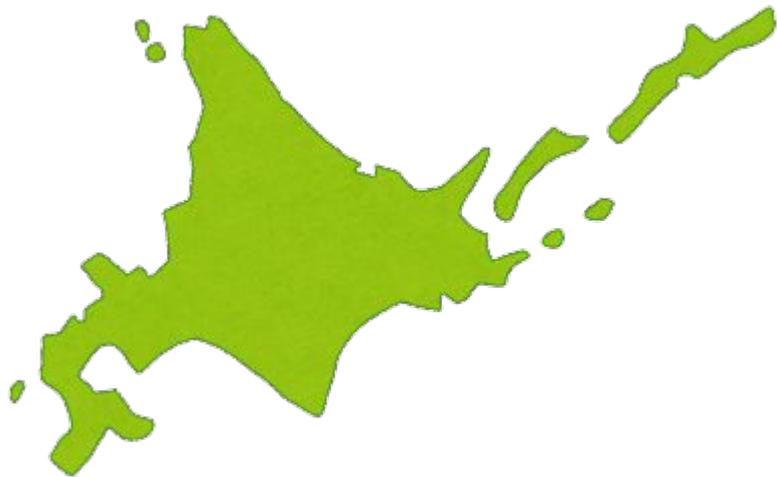
プラットフォームを通じて知らせる

規格外品の発生



生産現場に直接取りに行く





輸送はおこなわず三笠市&道内限定にする



生産者さんの負担が少なくなるように金銭
のやり取りはプラットフォーム上で

#6. 総括

社名

株式会社クラダシ

設立

2014年7月

所在地

東京都品川区上大崎3丁目2-1 目黒センタービル 5F

代表者

代表取締役社長CEO 関藤 竜也

事業内容

ソーシャルグットマーケット「Kuradashi」の運営

URL

<https://www.kuradashi.jp/> (ショッピングサイト)

<https://corp.kuradashi.jp/> (会社HP)

株式会社クラダシは、三笠市以外の自治体でも支援を引き続き行なって参ります。

ご質問・ご相談等ありましたら、お気軽にお問い合わせください。